

Teachers' 2026+

「子どもまんなか授業」

～主体的・対話的で深い学びをすべての教室で実現するために～

下越教育事務所

令和8年4月号

バックナンバーはこちら

→→→

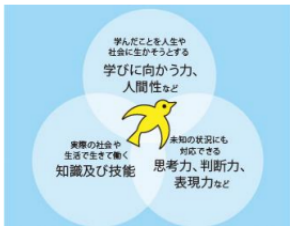


下越教育事務所では、「主体的・対話的で深い学びを全ての教室で実現するために」を合言葉に、学校現場に役立つ情報を「Teachers'」をとおしてお届けしています。本年度は「Teachers' 2026 プラス」（4月、7月、11月）「Teachers' 2027」（3月）の発行を予定しています。ぜひお読みください。

令和8年度 学力向上、授業改善支援全体像

下越教育事務所

資質・能力の育成



【本県教育の基本理念】 一人一人を伸ばす教育

～一人一人の個性に応じた、質の高い豊かな教育の推進～

【めざす人間像】

ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦し、未来を創ることができる人

【問題解決の視点】

【視点1】

「子どもまんなか授業」の実現

プロジェクト支援訪問

☆市町村教育委員会や学校等の要請に応じた支援
・学力向上、教科指導、学習評価、道徳教育、人権教育、同和教育、特別支援教育、学級経営等

指導資料の作成と活用促進

☆Teachers' (2026プラス、2027)の作成・配信
☆過去のTeachers'の活用促進

市町村教育委員会との連携

☆管内指導主事会議等の開催と情報の共有

学校・市町村の
ニーズに応じた支援

【視点2】

深い学びの実現に向けた言語能力の育成

学力向上推進システム活用事業 にいがた学びUP推進事業

- 市町村支援事業による訪問
- 「まなチャレ教材」の研究・活用の支援
- 「学力診断配信問題」の研究・活用の支援

教科教育専門監事業

- 教科教育専門監による授業参観・助言、示範授業、授業力向上研修会→連携した指導・支援

教職員研修

- 教育支援システム(Tea Room)の有効活用(初任研、6年次研、中堅研、教科リーダー育成講座等)

義務教育課と連携した事業

随時、御相談ください！

下越教育事務所では、随時プロジェクト支援訪問を受け付けています。訪問内容については、各学校、各市町村の御要望にお応えします。いつでも御相談ください。例えば、以下のような御要望にお応えします。

Q. 校内研究授業における指導を要請しました。事前に指導案などについても相談できますか？

A. 授業構想の段階から、支援いたします。研究推進委員会等の少人数での検討に要請いただくことも可能です。また、オンラインで支援することも可能です。

Q. 学校の研究テーマや課題についての講義等をお願いできますか？

A. 各校の課題等に応じた講義、演習を行います。(例)「言語能力」「学級経営」「個別最適な学び・協働的な学び」「深める問い」「学びの自己調整」「対話のある学び」「学習評価」等

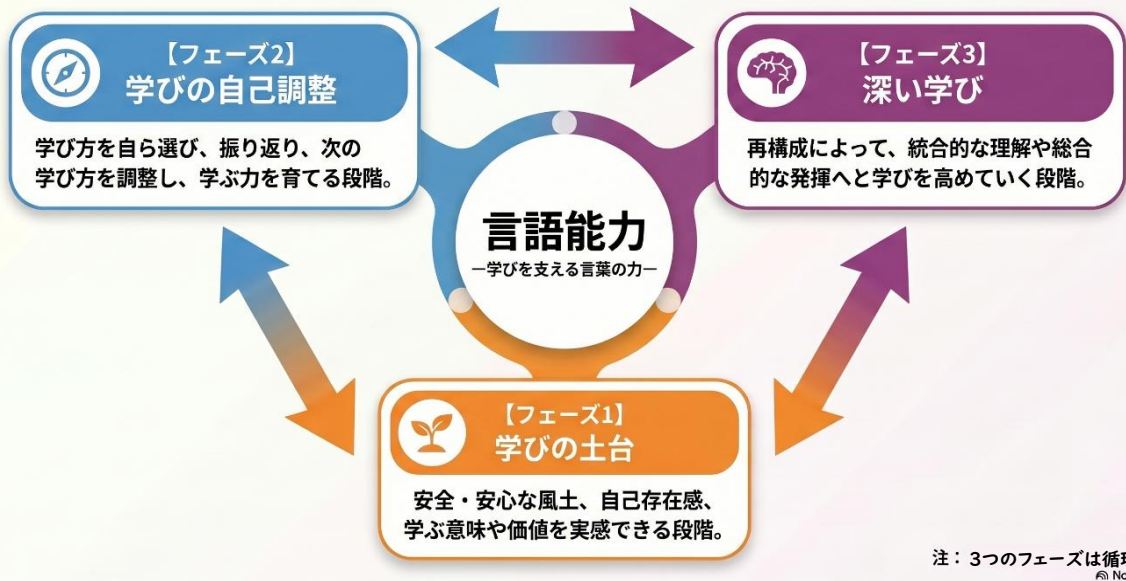
Q. 市町村の教育研究会等の教科部会で研修を行います。講義等をお願いできますか？

A. ニーズに応じた内容について講義いたします。教科教育専門監や教科リーダーの招聘、複数回の要請も可能です。オンラインであれば旅費は不要です。

子どもまんなか授業とは

子どもが学びの主役となり、自ら問いをもち、考え、選び、友達と関わりながら学びを深めていく授業です。教師は、その学びが成立するようにねらいを明確にもち、支え、つなぎ、深める役割をします。

子どもまんなか授業の実現に向けた3つのフェーズ



「子どもまんなか授業」は、一足飛びに実現するものではありません。児童生徒が安心して学びに向かい自ら学びを調整しながら、対話を通して考えを深めていく授業を実現するためには、授業改善を段階的かつ循環的に捉えることが大切です。下越教育事務所では、その過程を「学びの土台」「学びの自己調整」「深い学び」の3つのフェーズで整理します。各フェーズは相互に影響しあい、この3つが循環することで学びの質が連続的に高まっていきます。

【フェーズ1】学びの土台

児童生徒が安心して学びに向かうことができる土台を整える段階です。安全・安心な風土の中で、自己存在感を得たり、共感的な人間関係を育んだり、自己決定の場をもったりしながら、「なぜ学ぶのか」「何を目指すのか」といった学ぶ意味や価値を実感できるようにします。

また、問いをもちたくなる課題設定や導入の工夫、目標や見通しの共有、言語能力などの学習の基盤となる資質・能力が働き始める条件づくりも、この段階で大切です。

【フェーズ2】学びの自己調整

日常の授業の中で、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、見通しをもち自分に合った学習方法や場を選び、必要に応じて他者と対話しながら学ぶことを通して、自ら学習を調整しながら学ぶ力を育てる段階です。この段階では個別最適な学びと協働的な学びを往還しながら、児童生徒が自分にとってよりよい学び方を見いだしていくことが大切です。「一人で考える」「友達と考える」「資料に戻る」「教師に相談

する」といった学び方を自ら選び、振り返り、次の学び方を調整することが、このフェーズの中心です。

【フェーズ3】深い学び

身に付けた知識及び技能や学び方を活用し、教科等の見方・考え方を働かせながら、考えをつないだり、問い直したり、再構成したりすることで知識及び技能の統合的な理解や、思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮へと学びを高めていく段階です。この段階では、言葉を通して考えを整理し、比較し、関係付け、吟味することが、深い学びを支える重要な役割を果たします。

深い学びとは、単に話し合いが活発になることではなく、学んだことが意味あるまとまりとして結び付き、他の学習や生活にも生きて働くようになることです。

言語能力は3つのフェーズを貫く

言語能力は、授業の中だけで完結的に身に付くものではなく、学校生活全体をとおして継続的に育まれるものです。そのため、各教科等の学習はもとより、学校のあらゆる教育活動において、子どもたちが言語を用いて考え、表現し、他者と伝え合う経験を積み重ねていくことが重要です。こうした経験の蓄積が、授業における対話の質を高め、思考の深化を促します。その結果として、主体的・対話的で深い学びの実現へとつながっていきます。

3つのフェーズで捉えることが日々授業づくりに向き合っておられる先生方の新たな視点となるかもしれません。ぜひご活用いただきますと共に、2026年も共に考え、共に取り組んでいきましょう。

日々の授業において、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善が図られるように、「授業改善 12 のポイント」を作成しました。毎日の授業の振り返りとして、御活用いただければ幸いです。プロジェクト支援訪問等においても、以下 12 のポイントを中心に、指導主事よりお話しさせていただきます。よろしくお願いします。

下越教育事務所 令和 8 年度版
「子どもまんなか授業」の実現

3つのフェーズで捉える 授業改善 12 のポイント

【フェーズ 1】学びの土台

- ① 児童生徒が自分で学びを進めていく姿を想定し、安心して学べる環境を整えている。
- ② 単元のゴールとして、児童生徒がどのように考え、どんな理解に到達していれば「深い学び」と言えるのかを、単元構想として描いている。
- ③ 課題に対して「やってみたい」「知りたい」と感じるような導入や問いになっている。

【フェーズ 2】学びの自己調整

- ④ 児童生徒が「解決したい問い」をもち、学習のゴールを設定し、課題を解決するために「何を明らかにすればよいか」という見通しをもっている。
- ⑤ その問いを解決するために、「どうやって学ぶか」を児童生徒が自分で選んでいる。
- ⑥ 児童生徒が自分で選んだ方法で、課題解決に向けて主体的に学習を進めている。
- ⑦ 児童生徒が友達と考えを伝え合い、比べたり、つなげたりしながら、よりよい考えに高めている。
- ⑧ 児童生徒は分からないことや困ったことがあったときに、友達や教師に自ら相談している。
- ⑨ 児童生徒は気付いたこと、分かったこと、新たに生まれた疑問などをノートや端末に記録している。

【フェーズ 3】深い学び

- ⑩ 児童生徒は自分の学び方が適切だったかを振り返り、うまくいった点や改善点を自覚している。
- ⑪ 児童生徒は、学んだことを自分の言葉で説明したりまとめたりして、整理している。
- ⑫ 児童生徒は今回の学びを整理して意味付け、「次はこう学びたい」と学びをつなげている。

上記の授業改善のポイントを実現するためには、児童生徒が協働し、主体的に問題解決をしていく「学びに向かう集団づくり」の視点が不可欠です。次ページの「子どもまんなか」学級づくりチェックリストを活用して、学習指導を支える学級づくりの充実にも取り組みましょう。

「子どもまんなか」学級づくりチェックリスト

下越教育事務所 学校支援第2課

「子どもまんなか授業」に向けた授業改善と共に、学級づくりの視点でも考えてみませんか。

以下AからDまでの項目について、該当する1～4の数字を○で囲んでください。

4:よくしている 3:だいたいしている 2:あまりしていない 1:ほとんどしていない

A 「自己存在感の感受を促進する授業づくり」に関する手立て

【「大切にされている」実感と共に、自分を肯定的に捉える自己肯定感や自己有用感を育むことを意識しましょう】

1	つぶやきを積極的に取り上げて、児童生徒の思考に沿った授業展開を心掛けていますか？	4	3	2	1
2	児童生徒一人一人の学ぶ様子や人間性を認め、肯定的な言葉をかけていますか？	4	3	2	1
3	「さん付け」で呼名したり、目を見て話したりするなど、児童生徒の存在感を大切にしていますか？	4	3	2	1
4	発言したり、発表したりすることが苦手な児童生徒に配慮していますか？	4	3	2	1

B 「共感的な人間関係を育成する授業づくり」に関する手立て

【互いに認め合い、励まし合い、支え合える集団づくりを心掛けましょう】

5	児童生徒が、互いの考えを理解したり、肯定的に受けとめたりしながら、学びに向かう場を設定していますか？	4	3	2	1
6	児童生徒が、多様な考えにふれられるような工夫をしていますか？	4	3	2	1
7	教師が、自ら自己開示をし、児童生徒から学ぶ姿勢をもっていますか？	4	3	2	1

C 「自己決定の場がある授業づくり」に関する手立て

【自ら考え、選択し決定する場や機会を設けることを意識し、自立した学びの土台をつくっていきましょう】

8	児童生徒が、学習課題や学習方法、学習形態（一人で調べたり考えたりする時間）などを選択できるようにしていますか？	4	3	2	1
9	思考場面や観察場面で、考えたり、観たりする視点を示していますか？	4	3	2	1
10	児童生徒が、学習をふり返り、次時の学習について考えるような場を設けていますか？	4	3	2	1
11	児童生徒一人一人のペースを大事にし、児童生徒が自分の言葉で表現することを待っていますか？	4	3	2	1

D 「安心・安全な居場所・風土に配慮した授業づくり」に関する手立て

【児童・生徒全ての個性を尊重し、学ぶ喜びを実感させることを意識しましょう】

12	たどたどしい発言でも、言い終わるまで待ったり、まとまりのない考えや意見のように思われても、熱心に聴いたりして、友達の考えや意見を大切にするような工夫をしていますか？	4	3	2	1
13	相手の考えに語句や応答などの間違いがあっても、肯定的に受けとめるように指導していますか？	4	3	2	1
14	個や集団の学習状況を適切に見取り、それに応じた支援を行っていますか？	4	3	2	1
15	児童生徒と合意した学習ルールがありますか？	4	3	2	1